■　第３章　ビジョンの基本コンセプト（３０年後の目指すべきまちづくり）とビジョンプロジェクト

那須塩原駅周辺の現状や課題、報告書の中で示された方向性、市民懇談会における検討やアンケート調査の結果などを踏まえ、ビジョンの基本コンセプトを次のとおり定めます。

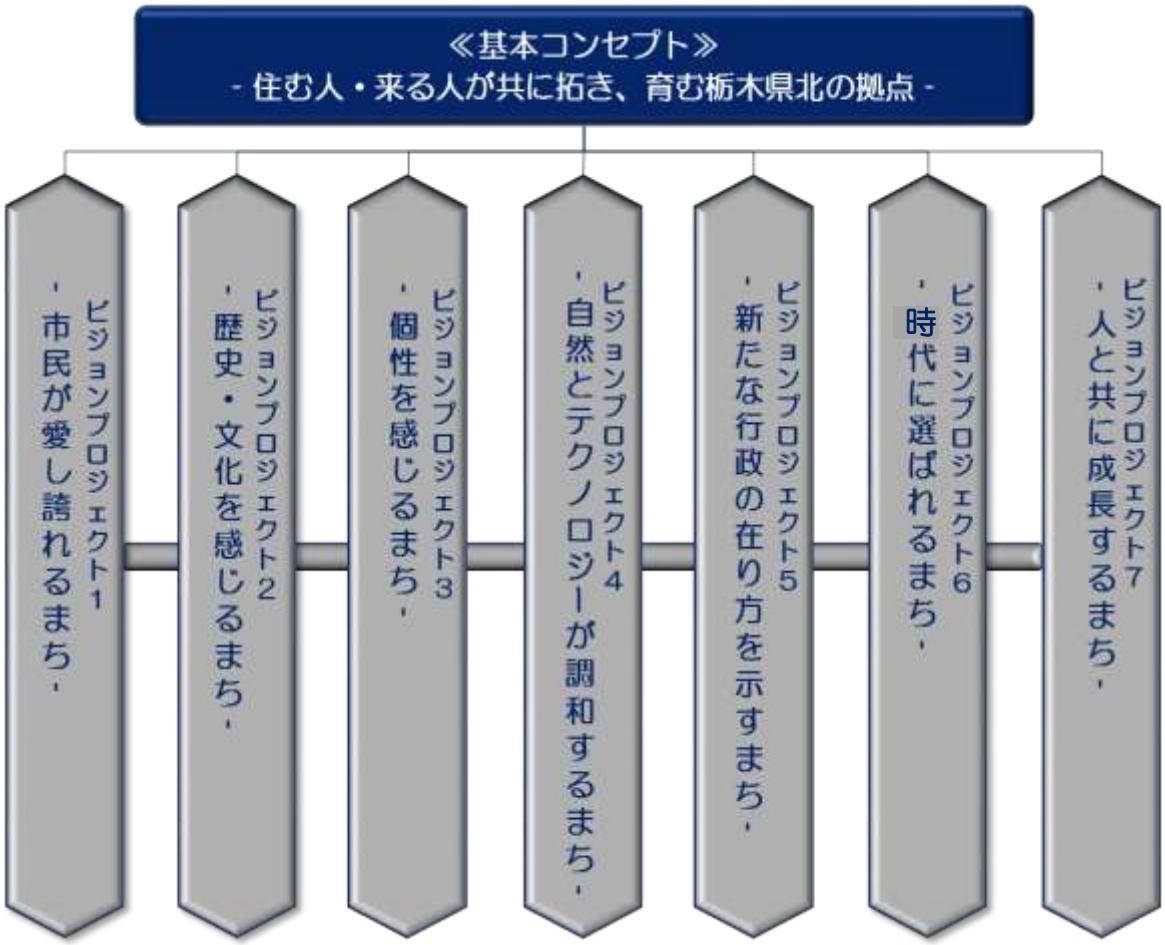
そして、その実現に向け７つのプロジェクトを掲げてまいります。

ビジョンプロジェクト１から６については、報告書において有識者からの提言として「外」からの視点で見出して頂いた、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素や考え方に、市民懇談会、市民アンケートやグループインタビューといった、これまで重ねてきた市民参画のプロセスを通じ、沢山の市民の皆様から頂いた「内」から見たときのまちづくりに対する夢や想いを加えて３０年後の未来を描いていきます。

また、ビジョンプロジェクト７は、こうした市民参画のプロセスそのものを、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素として、コンセプト実現に必要なプロジェクトの一つとして掲げることといたしました。

この基本コンセプトと７つのビジョンプロジェクトにより、３０年後の未来のイメージを明らかにしていきます。

【コンセプト構成図】



プロジェクト１-市民が愛し誇れるまち-

１【プロジェクトの目的】

市民にとっても、那須塩原市を訪れた方にとっても、愛着が生まれ、「このまちに住んでみたい」「このまちに住み続けたい」と心から思える、次の世代に自信をもって残していける満足度の高いまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- まちづくりには地域への愛着が大切。
- 駅を中心とした市民の巻き込みと外部からの人の呼び込みが重要
- 市のみならず、那須野が原、栃木県北地域全体の玄関口として、その地域を象徴するような駅を目指すべき。
- 観光客のみならず地域の人も那須全体を楽しめる拠点であることが必要。
- 上質な高原リゾート、東京からのアクセス等の魅力は軽井沢と同様のポテンシャルがある。駅を拠点に魅力を更に高め、認知度を上げていく余地は十分にある。
- まちづくりのイメージの可視化とまちづくりに対する市民の内発性の喚起が必要。
- まちの賑わいは駅周辺を中心に作り上げるのが良い。

≪アンケート調査等からの意見≫

- 今ある自然や、安心安全は維持しつつ、移動（公共交通機関）や仕事が充実した住みやすいまちが良い。
- まずは住民が住んでいて行きたいお店やくつろげる場所があり、自然と人が集まるようになって欲しい。地元住民が住みやすい場所になって欲しい。そうすれば移住者の増加や観光客も足を止めてくれる場所となると思う。
- 市民参加の花壇を作り、季節の花などを植えてゴミなど捨てることをためらうような、きれいな通りにしたらと思います。
- 活気があって、でも安心で安全で県外から来た人も周辺に住んでる人もまた来たいなと思える場所だといいかな。
- どの年代にも親しみや情が湧くような場所であり、かつ気軽に買い物などができるような、駅周辺だけでも満足できる時間を作ることができるような場所になったら良い。

３【プロジェクトの施策の方向】

- ◆　都市環境の充実
- ◆　移住・定住施策の強化
- ◆　那須塩原市・栃木県北の玄関口としてのブランド化

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ】

那須塩原駅周辺に商業施設が増え、駅周辺の住民をはじめ、そこを目的地として訪れる人も増えるとともに、駅利用者などにとっても回遊性が高まるなど、人々が、日々の生活の中に「活気や賑わい」を感じるとともに、「安全や安心」「癒しや安らぎ」といった「暮らしやすさ」「住み心地の良さ」を感じる環境が整備されている。

そして、そうした環境が整備されることにより、地域に対する「愛着」や「誇り」がより一層育まれ、ほかの人に自慢したくなるようなまちになっている。

また、住民自ら「まちへの愛着」「まちの誇り」等エリアに関する情報を発信し、那須塩原駅周辺の対外的な認知度（魅力度）のアップ、那須塩原駅周辺を中心とした移住・定住者の増加にもつながっている。

５【プロジェクトイメージ図】

３０年後のイメージ図

プロジェクト2-歴史・文化を感じるまち-

１【プロジェクトの目的】

開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- 大切に語り継がれる那須野が原の開拓の歴史は、まさに地域のアイデンティティ。
- 日本遺産にも認定されたこの歴史をまちづくりに積極的に活かしていく必要がある。
- 市町村合併の背景も踏まえ、開拓の歴史などをテーマとしたイベントを駅周辺で開催し、市民の拠り所として一体感の醸成につなげていくことも有用。
- 皇族が利用する駅を有するエリアとして、まちなみにはそれにふさわしい風格も必要。

≪アンケート調査などからの意見≫

- 歴史や文化のイメージがもっとあるといいなと思います。
- 皇室が訪れる玄関口でもあるので、品格のある景観であって欲しい。皇室だけでなく有名な著名人も利用されている事が有ると思いますので、県北の良さが感じられるエリアであると情報発信（県外の方々にＰＲ）。
- 歴史や地域の特色を生かし、大都市には真似のできない、特にソフト面でのきめ細やかな居心地の良さを追求して頂きたいと思います。
- 物産展を含め、飲食店、カフェ、ショッピングアーケードなど、駅を利用する人だけでなく地域の人たちも“行ってみたい”があるまちづくり。子供達に歴史博物館（那須にちなんだもの）があっても面白いではないかと思います。

３【プロジェクトの施策の方向】

- ◆　歴史や文化の継承（担い手づくり）
- ◆　歴史・文化の共有に向けた教育、イベントの開催
- ◆　文化財の積極的な活用

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ】

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことが出来る環境が整備されるとともに、担い手によりしっかり継承されている。

また、駅を出発点として、文化財を巡る周遊交通機関なども整備され、観光客だけでなく、市民も容易に「訪れる」ことが出来るようになるなど、歴史や文化が、日々の暮らしの中に「感じる」ことができるまちになっている。

また、市民を中心にそうした歴史や文化を活用したイベント等が行われ、人々の中の歴史や文化に対する関心や理解が深まるとともに、ＳＮＳ等を通じて対外的にも本市の歴史や文化が広くＰＲされ、誘客の一つの資源になっている。

５【プロジェクトイメージ図】

３０年後のイメージ図

プロジェクト３-個性を感じるまち-

１【プロジェクトの目的】

那須塩原駅から見える那須連山の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通じて、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として那須地域全体、栃木県北全体の魅力も感じることができるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- ■ 駅を降りた後に広がる素晴らしいスカイラインと那須連山の景観をもっと活かすべき。
- ■ 駅前全体に大掛かりな施設が必要というわけではなく、地域全体のことが分かる地域の魅力を凝縮した様々な要素が集まったパッチワーク型の施設があれば、駅前の雰囲気を変えることができる。
- ■ インバウンドの少なさが観光面における課題の一つ。
- ■ 市内の主要観光地を上手く周遊するための二次交通の充実が重要。市内にとどまらず那須地域全体の観光を活性化にもつながる。
- ■ テクノロジーの進歩等による新たな交通環境の展開を想定し、鉄道利用者の拡充を図ることが必要。
- ■ 自然の景観はもちろん、街並みの景観も重要であり、そのためのコントロールも重要。
- ■ 豊かな自然の中に庁舎が顔を覗かせる駅前の在り方も良いのではないか。

≪アンケート調査などからの意見≫

- ■ 自然の豊かさは、那須塩原市の魅力なので、それを残しつつ、人の集まる施設もあると良い。
- ■ 那須の特性を持つ県北観光の拠点にふさわしく、地元民も含め観光客が駅前周辺を快適に散策、滞留しやすい魅力的な街づくり、環境作りが重要。
- ■ 那須塩原駅前に那須のシンボルとしてふさわしい像等を建てて、那須をもっとアピールし観光客を呼び込めば、今まで以上に活気が出て経済も発展すると思います。
- ■ 大都市の真似事をしても、追いつくわけではなく意味がない。利便性（新幹線）＋景観（自然を生かした、おしゃれな街並み）＋人との交流を軸に、新しい発展の形を構築できると良い。

３【プロジェクトの施策の方向】

- ◆　那須塩原市の魅力の再確認と付加価値
- ◆　景観の維持・保全及び積極的な活用
- ◆　二次交通網の充実・強化

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ】

　那須塩原駅を降りると、本市の「らしさ」をイメージさせるモニュメント（人工物）と那須連山の山並み、星が瞬く澄んだ夜空等の風景（自然物）が出迎えとともに、駅前には那須塩原市や那須エリアの観光地、特産物等をインフォメーションする施設等が整備されるなど、駅を降りた瞬間から「那須塩原らしさ」「那須らしさ」を感じられる空間が形成されている。

　また、那須塩原駅及びその周辺をターミナルとして、観光はもちろんのこと、ビジネスなどで訪れた方にも対応した二次交通網が整備され、駅周辺を訪れた人達がストレスを感じることなく、必要なエリアに移動することが可能になっている。

　こうした環境により、那須塩原市、そして那須塩原駅周辺を訪れた方の中に、より良い「那須塩原らしさ」が印象付けられ、那須塩原市に愛着や関心、興味を寄せてくる方、那須塩原市移住者や定住者の増加にもつながっている。

５【プロジェクトイメージ図】

３０年後のイメージ図

プロジェクト4-自然とテクノロジーが調和するまち-

１【プロジェクトの目的】

テクノロジーと自然が調和し、先端技術を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- ■ デジタルを活用し、魅力をより広範囲に届け、その効果を計測して機能させるサイクルが大切
- ■ 先端技術の積極的な活用を図り、多くの人々が集まる機会やきっかけを生み出し、まちそのものに活気を与える。
- ■ 東京圏までのアクセスの良さを活かし、ワーケーション（ワーク×バケーション）等多様な働き方を実現するスマートタウンの拠点としての整備なども考えられる。
- ■ 世界のデジタル革命先進地が豊かな自然を背景に食や農につながる環境にあるという実態は、那須塩原市のポテンシャルに通じるものがある。
- ■ テクノロジーの追及は人間にとってストレスの問題にもつながる。
- ■ テクノロジーと自然（癒し）の相乗効果により那須塩原のブランド力を高める。
- ■ ターゲットを明確にし、ここに住みたいと思ってくれる人々を増やす事が、今後の更なる持続的な発展につながる。

≪アンケート調査などからの意見≫

- ■ 昨今のリモートワーク等の推進・一極集中見直しの流れの中で、少し足を延ばせば山があり大都会への距離も程良いこの地域は、人が働き生活する基盤となれる土地だと思う。
- ■ 新型コロナウイルス感染症によって生活や仕事のスタイルが一変してしまいました。この変化に取り残されることなく、サテライトオフィス、ワーケーションなどを意識したまちづくり企画や急速に脚光を浴びているデジタル関連企業の積極的な誘致など安定した経済基盤の構築についてもまちづくりビジョンに反映して欲しい。
- ■ 自然とテクノロジーが融合したまちづくりを行って下さい
- ■ 分都やワーケーションをコンセプトに計画されると良いと思う。現在、自然豊かな環境があり、それを充分活用できると思う。その玄関口としてのまちづくりが必要と考える。

３【プロジェクトの施策の方向】

- ◆　デジタル環境の整備・充実
- ◆　サテライトオフィス・ワーケーションに係る施策の充実
- ◆　観光施策との連携

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ】

東京などへのアクセスの優位性が広く認知されるとともに、駅周辺のデジタル環境の整備・強化が進み、東京圏に本社を構える企業のサテライトオフィス等が駅周辺に定着するなど、多様な働き方が実践されている。

こうしたデジタル環境の整備は、鉄道を利用する観光客やビジネスマンをはじめ、学生や市民の利便性向上にもつながっている。

また、市内の温泉地区等においてもデジタル環境の整備が進み、ワーケーションに適したエリアとして全国的な認知が進むとともに、従来、那須塩原市が有している豊かな自然環境がもたらす「癒し」などとの相乗効果によって、本市が持つ「観光地（非日常）」としての魅力の充実が図られるとともに「職場（日常）」としての新たな価値が生み出されることにより、企業の誘致、それに伴う移住や定住人口の増加などにつながっている。

加えて、そうした環境の変化に伴い、従来、駅周辺において駐車場用地として利用されてきた土地も新たな利用形態への転換が進んでいる。

５【プロジェクトイメージ図】

３０年後のイメージ図

プロジェクト５-新たな行政の在り方を示すまち-

１【プロジェクトの目的】

新たな時代に相応しい行政機能を有し、公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、那須塩原市、栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークとして、人と人とのつながりを創り、そこから新たな価値や魅力が生まれるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- 新庁舎は環境に配慮したオフィスとして率先して先端技術を活用し、駅周辺のまちづくりにおける、景観形成において先導的な役割を果たすことが期待される。
- 庁舎は市の象徴。文化･歴史やアイデンティティを感じられるようなものであるべき。
- 庁舎の機能は、行政手続の将来予測を踏まえ、長期的な視点で検討する必要がある。
- 市民活動の結節点としての役割も重要。人の往来を生み出すためには、従来の普通の「箱」ではなく、様々な要素が複合化したものであることが考えられる。
- 市役所は市民が集まる場所であり、コミュニティ形成の強化に資する機能も必要。
- 人と人とが交流することで新たな価値を生み出す、市民が集まりやすいオープンな場所であることが必要。
- 官民連携（ＰＰＰ）では、ハード整備だけではなくソフト面での連携も大切。
- 庁舎には核となるようなものを残しつつ機能を分散するとともに、自然を残していくという在り方も考えられる。
- 庁舎の建物の在り方も、時代の様々な変化に対応できるよう、柔軟性を持った、フレキシブルなデザインであっても良いのではないか。
- 駅には商業施設的なものを集積し、庁舎は人と人との交流の場としての役割を担うものとし、全体の景観の中で一体的に繋がっているイメージが良いのではないか。

≪アンケート調査などからの意見≫

- 駅周辺に全てを網羅する一極集中ではなく、行政機関を中心に、ここから色々な情報等を発信する「発信基地」（コールセンター的）とし、それ以外は、市全域がバランス良い配置（色々な施設、店など）を考えてもらいたい。
- 他県にて、家賃収入がある市役所があるとの事、事務所や店舗等、面白いと思う。高さ制限の件も含めて、又、外観よりも使いやすい市役所になるといいと思う。

３【プロジェクトの施策の方向】

- ◆ 新庁舎及び駅前空間の整備
- ◆ 新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備
- ◆ 民間活力の導入

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ -】

新たな庁舎は、「デジタル化の推進」「新たなリスク管理」等、時代の潮流を見据えた機能を備えるとともに、本市のランドマーク施設としての「那須塩原市らしさ」や県北の玄関口に構える庁舎として「那須エリア」を感じる事ができる空間を有し、庁舎そのものの利用価値・存在意義が高まり、市民にとってのアイデンティティを備えた、シンボリックな建物として、行政手続きだけでなく様々な利用目的で市民が訪れる場所となっている。

また、こうした庁舎を核として、周辺エリアの道路網等のインフラストラクチャーの整備等、駅周辺のまちづくりが進み、市内外からのアクセス性の向上、駅周辺への店舗等の増加等に伴い、那須塩原駅周辺における人々の回遊性も高まり、駅周辺における新たな人の動きが生まれる等、更なる「賑わい」や「魅力」の創出、人や事業者の流入、土地利用の高度化等、まち（エリア）全体の活性化が図られている。

５【プロジェクトイメージ図】

プロジェクトテーマのイメージ図

プロジェクト6－時代に選ばれるまち－

１【プロジェクトの目的】

首都機能の地方分散、国のバックアップ機能の受け皿の一候補地など、より大局的な見地から、栃木県北地域など広域的な拠点となるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪有識者会議からの提言≫

- 交通の要衝として、那須塩原市のみならず栃木県北地域における交通網の拠点（ハブエリア）としてのまちづくりが求められる。
- 自治体間の広域的な連携強化を進める那須塩原市にとって、駅周辺はそれら広域圏の拠点たるに相応しい環境を整備する必要がある。
- 首都機能の東京一極集中のリスクが顕在化する中、本市は「災害に対する安全性」「東京圏へのアクセスの容易性」、また「国会等移転先の候補地とされた過去の経緯」等を有している。
- 中央省庁をはじめとする首都機能の地方分散の受け皿、バックアップ地としての役割を果たすポテンシャルを秘めている。
- 気候変動対策等、那須塩原市が国や他の自治体に先駆けた取組を実践しており、こうした環境政策を通じて地域課題を解決し、市民が安心して幸せに暮らせる持続可能なまちの構築を見据える必要がある。

≪アンケート調査などからの意見≫

- 観光を考えると那須町との協力の上で進める事も必要。
- 中央省庁を誘致して欲しい。一つでも誘致されれば様相は一変するだろう。
- 那須塩原市は地球環境保全に貢献できる再生可能エネルギー施設や CO2 を還元する豊かな自然環境を保有しているので、これをアピールするような施設が有っても良い。
- ゼロカーボンシティへの取組を、行政だけではなく、アートや、いろんな分野との協力や繋がりで、市民にとっても責任ある行動を堅苦しくないイメージで広め、実践していけるような街になって欲しい。
- 今後の地球環境の変化（災害が多くなる等）やＣＯ2 ゼロ宣言など、他にない新しい視点でのまちづくりに対応できるエリアとして期待したい。そういう所には、人々は集まりコミュニティが築かれていくのでは。

３【プロジェクトの施策の方向性】

- ◆　首都機能の地方分散等に向けた機運の醸成及び受け皿となる魅力の創出
- ◆　広域圏における道路網の整備等、自治体間の連携強化
- ◆　持続可能性の追求、環境政策等を通じた地域課題の解決

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ -】

「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」といった那須塩原市が有する地域の優位性などから、市内への首都機能の一部移転が実現し、玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備とともに、気候変動への対策等、那須塩原市が全国に誇る取組を生かしたまちづくりが進んでいる。

また、首都機能の一部移転に伴う関係者の移住や定住が進み、人口減少に歯止めがかかるとともに、移転機関への通勤者により那須塩原駅の利用者数も増加し、それらをターゲットとした新たな「賑わい」や「活気」が駅周辺に生まれている。

加えて、本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

５【プロジェクトイメージ図】

30 年後のイメージ図

プロジェクト7 - 人と共に成長するまち-

１【プロジェクトの目的】

様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人材が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民など多様な担い手との協働が実践されるまちをつくる。

２【プロジェクトへの提言やアイディア】

≪市民懇談会、グループインタビューなどからの意見≫

- まちづくりへのニーズは人それぞれ。異なって見えるニーズの共通点などを見つけながら進めることが大切。
- 行政だけではなく、様々な担い手と連携し、まちづくりに対する想いを出来得る限りすくい、生かしていくことが肝要である。
- まちづくりに関心のある多種・多様な人材や担い手との出会いにより、まちづくりの手法等が広がる。

≪アンケート調査などからの意見≫

- 多くの人が意見を言える場が欲しい。
- まちづくりに皆が話し合って、身近な事を感じ楽しめたら良いかも。
- まちづくりを担うのはこれから大人になる子どもたち。
  地区にある高校から代表を募り、そういった計画を定期的かつ、何年間かにわたって行っていくのは大切（必要）だと思う。
- 若者の人材育成とアイディアを取り入れた環境作り。
- もっと多くの人が意見を言えて、まちづくりに参加できる場、イベントがあればと思う。人と人との関わりがもっともっとできる施設などが欲しい。
- 都会の街並みを目指すのではなく、市民全体で考え、一体感のある街を作って欲しい。独自性があり活気があれば、人はたくさん来ると思います。
- 発揮出来ていない魅力的な要素や人材がたくさんあると思うので、そういった人々が集い、市に貢献できる企画や機会をどんどん計画して頂きたいと思います。

３【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ◆　市民参画プロセスへの理解の深化と機運の醸成
- ◆　市民参画プロセスの仕組みづくりや担い手づくり
- ◆　市民、自治会、ＮＰＯ法人、事業者等多様な担い手との連携強化

４【プロジェクトで描く３０年後の未来のイメージ - 】

まちづくりに対する夢や想いを持っている市民をはじめ、まちづくりの大切なパートナーの一つである自治会、まちづくりに取り組んでいる市民団体、まちづくりなど専門的な知見を有する有識者、まちづくりに関心のある民間企業などからなる『那須塩原市版まちづくりシンクタンク』が構築され、それらと行政が一体となって、多種・多様な知見と視点を持ってまちがつくられている。

また、まちづくりに関するネットワークも広がり、民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになっている。

併せて、市民の中に「市政への市民参画」の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれている。

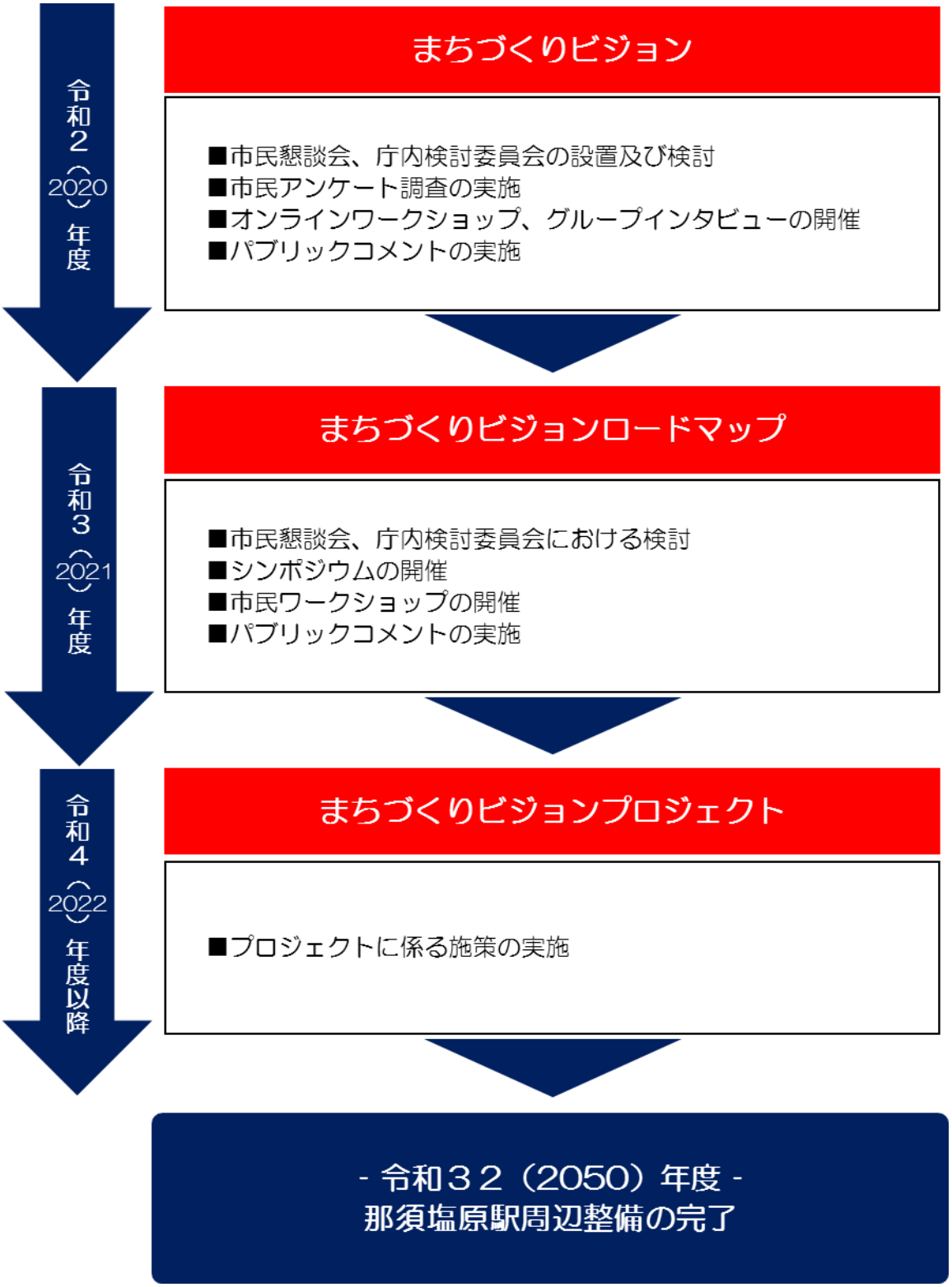
５【プロジェクトイメージ図】

３０年後のイメージ図

■　第５章　プロジェクトの実現に向けて

５－１　スケジュール

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具現化していくための行程を次のとおり示します。



５－２　ビジョンの具体化に向けた方向性

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、着実に取り組んでいきます。

⑴　民間活力の積極的な導入及び導入を促す新たな魅力の創出

■PPP（Public Private Partnership）等の活用を積極的に検討するとともに、駅周辺への進出を検討している民間事業者への支援方策を検討する。

■駅周辺の道路網等、都市基盤の整備を計画的に進め、駅周辺及び駅周辺エリアへのアクセス性の向上に努める。

■景観等に配慮しつつ、建築物の高さ制限などに関し、その有効性や緩和の必要性等について検討する。

⑵　市民との協働によるまちづくりの更なる推進

■地域の継続的な発展、まちづくりの維持のため、地元住民を中心とした市民との協働によるまちづくりを担う組織づくりを支援する。

■継続的な協働のまちづくりの素地の醸成、担い手の創出に努める。

⑶　多種多様な事業手法の検討と積極的な活用

■行政効率、財政負担の軽減などを念頭に、事業の計画・実施に当たっては様々な角度から事業手法を検討するとともに、多様な視点をもって財源の確保に努める。

■所管が異なる複数の事業が同時に展開されるような場合、円滑な事業推進が図られるよう必要に応じて協議・調整の場を設ける。